

# 自分の考えを再構成する力の育成

～課題解決的な言語活動を通して～

望月 陵 富高勇樹 平井規夫 大脇 博

## 1 主題設定の理由

### 【知的に自立する】

新学習指導要領が全面実施となった。生徒の実態を見極めながら、学力の3要素である「基礎的・基本的な知識・技能」、「知識・技能を活用することを通して育まれる思考力・判断力・表現力等」「主体的な学習態度」を国語科の指導事項にどのように結びつけて指導と評価を一体化していくかについて、実践を通して深めていきたい。

今回の改訂では、実生活・実社会を意識した課題や言語活動が注目されている。背景にある教育基本法の改訂においても、知識基盤社会を生きる生徒にPISA調査の「主要能力（キー・コンピテンシー）」を含む「生きる力」を育成することが求められている。つまり、課題に直面したときに自力解決できる国語の能力を表現する活動を通して身に付けさせることがねらいである。

このような背景を踏まえ、本校の研究においても「知的に自立する」ことを目指し、「自ら問う力」の育成について取り組む。これは、自ら粘り強く課題に対して取り組む姿勢をつくることをねらいとしている。このような学びに対する主体的な姿勢をつくるためには、2つの要素が必要だと考える。それは、「探究」と「変容」である。「探究」は、物事をより深く知る内容面に関する知的な好奇心を高め、「変容」は、自分自身の学びの成長を実感させ、さらなる課題に向かおうとする成就感をもたせる要素である。「探究」を教科の指導事項に合わせた内容的な深まり、そして「変容」を情意面も含んだ課題解決能力の成長の高まりととらえている。これらの要素を充実させるために「探究を促す言語活動」、「変容を意識させる学習過程」に取り組む。

### 【これまでの研究から】

国語科ではこれまでに、学習指導要領に示されている「言語活動の充実」と「学習過程の明確化」から授業を構築し、検証してきた。

「言語活動の充実」では、これまで身に付けてきた基礎的・基本的な知識・技能を活用する場面の設定し、課題解決を通して思考力・判断力・表現力等を育成することをねらってきた。生徒は学習活動に意欲的に取り組み、内容的に深まりをみせた授業もあった。特に「交流」を意識したファシリテーションへの取組は、全学年での取組も踏まえ、効果が表れている。今後、3学年の系統性も含めて実践を積み重ねたい。しかし、活動内容が実社会や実生活とかけ離れていたり、活動に偏ってしまい何を学んだのか曖昧になったりする場面があったことも確かである。今後、生徒の実態、身に付けるべき指導事項、学習活動（教材）とのマッチングを検証していきたい。

また、「学習過程の明確化」では、一枚ポートフォリオなどを活用した取組を積み重ねた。見通しを持って課題に向かう姿勢が見られ、自分の考えをまとめる記述にも慣れてきている。一部の生徒の単元末の感想欄には、自分の考えの変容を意識し、新たな課題を持つ生徒も見られるようになった。しかし、まだまだ少数であり浸透しているとは言い難い。各授業や単元での評価をもう一度見直し、工夫を取り入れていきたい。

### 【自分の考えを見つめる】

本校国語科では、これらの課題点も踏まえ、生徒がより主体的に学習に取り組むために、昨年度に続き「自分の考えを再構成する」ことを研究主題とした。

具体的には、日常生活や社会生活との関連、そして、コミュニケーションツールとしての言語の特性を踏まえ、「気付き」と「交流」という2つの観点からアプローチしていきたい。生徒が身の回りの出来事や社会生活の中から気付くことから問いが生まれ、既存の知識や技能を活用し、友人との意見の交流を通して自分の考えをまとめ、そこから学びを深めるための新たな課題を設定しようとする知の再構成のサイクルを育成したいと考える。生徒が課題を与えられるのを待つのではなく、自らの課題に取り組んでみようとする姿勢を少しずつ育てていきたい。

そこで、国語科では「知的に自立すること」を「自ら課題に気付き、交流を通してまとめた自分の考えから、新しい課題をもつこと」ととらえ、研究主題を「自分の考えを再構成する力の育成」とする。

## 2 全体研究との関わり

本校全体研究テーマは「自ら問う力を育む授業の創造 ～思考力・判断力・表現力等の育成を目指して～」である。生徒が自ら問いを発し、解決に向かおうとする「知的に自立する」ことを目指している。国語科においては、生徒自らが言語を通して自分の考えを外化したり、他の考えと触れることで内化したりすることで自分の考えをより深め、広げる過程を通して、思考・判断・表現する力を身に付けることととらえた。いわゆる「指示待ち」の状態から脱却し、自ら課題意識をもちつつけて活動することで、学びへの主体性を養おうとするものである。

そのためには、自分自身で「自分の考え」を見直すメタ認知的な作業が必要であると考えた。

学習活動（言語活動）を通して、自分の考えがどのように変容し、どのような力が身についたのか。そして、その力が今後どのような場面で行かせることができそうかといった観点を持つことによって、学びの有用感を持ち、次へのステップへの意欲につなげることができるのではないかと考える。

国語科においては、これまでも一つの教材を正確に読んだり、何かのテーマについて意見文を書いたりといった具体的な形での学習は完成していた。しかし、学習者自身に国語科としてのどのような力が身に付いたのかということはあまり明確になってこなかったのではないだろうか。課題設定から授業のまとめにいたるまで、身に付けるべき国語の力を常に意識することで、学習活動の内容の充実にもつながると考えた。

そこで、国語科として以下の観点の充実を図る。

全体研究では具体的な研究の観点として、以下の4点を挙げている。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>A) 生徒に付けさせたい力とそれらを育むために生徒にもたせたい問い（問うべき問い）</li> <li>B) 生徒に問いをもたせる教材のあり方（教材研究）</li> <li>C) 生徒に問いをもたせるための教師の役割</li> <li>D) 生徒の問いをどう見取るか（表現活動・評価）</li> </ul> |
|---|

これらについて国語科では以下の観点としてとらえ直した。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>A) 言語能力と自己モニター能力</li> <li>B) 学習課題・言語活動の設定</li> <li>C) 教師の発問、指示</li> <li>D) モニターする力と評価</li> </ul> |
|---|

### A) 言語能力と自己モニター能力

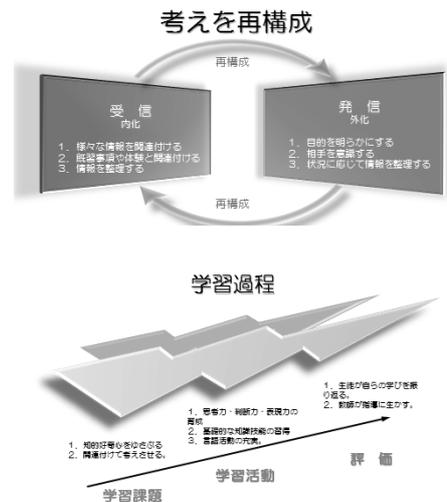
国語科において身に付けさせたい力の指針として、指導要領の指導事項がある。身に付けたこれらの力がより広がりや深まりをみせるためには、自分自身で「自分の考え」を見直すメタ認知的な作業が必要であると考えた。

学習活動（言語活動）を通して、自分の考えがどのように変容し、どのような力が身についたのか。そして、その力が今後どのような場面で行かせることができそうかといった観点を持つことによって、学びの有用感や、次へのステップにつながるのではないかと考える。

国語科においては、これまでも一つの教材を正確に読んだり、何かのテーマについて意見文を書いたりといった具体的な形での学習は完成していた。しかし、学習者自身に国語科としてのどのような力が身に付いたのかということはあまり明確になってこなかったのではないだろうか。課題設定から授業のまとめにいたるまで、身に付けるべき国語の力を常に意識することで、学習活動の内容の充実にもつながると考えた。

井上尚美は「自己モニター能力」について以下のように述べている。

「自分の行動や思考方法そのものを自分で反省し・チェックする能力のことで、それはつまり認知のしかたそのものを対象とし・問題として、とりあげて考えることであるから、メタ認知能力の一つである。」



また、この能力を付けさせる方法として

①問題そのものを問題にする

ア なぜそれが問題なのか。

イ この問題が本当に問題として成立するのか。または討議するに値するようなことなのか。

ウ この問題の背景（歴史的・社会的背景、あるいは出題者の意図、など）はどのようなところにあるのか、など。

②問題をいろいろな角度から（視点）からみる

ア 反対のことを考えてみる（反証を出すなど）。

イ これを問題とすることで隠れてしまう問題はないかを考えてみる。

ウ 問題の解決を先延ばしにしたらどうなるか、など。

③自分の考えに欠けたところがないかどうか確かめる

としている。これらを参考に、授業においては、目的と学習全体の見通しをもつことができる学習過程を計画するだけでなく、生徒がより自分の考えを深めることができる工夫について取り組みたい。

## B) 学習課題・言語能力の設定

言語能力を身に付けるために、生徒がこれまでに身に付けてきた言語能力を意識的に活用することができる学習課題の設定が求められる。

学習課題の設定は、新学習指導要領において改善事項の一つである言語活動を踏まえて取り組んでいきたい。言語活動については、今回の指導要領改訂で述べられているとおり、生徒が学習内容や活動に興味関心を抱き、見通しを持って主体的に学習に取り組むためのものである。単元構想表などを用いて学習の流れの中で、生徒が自らの課題を明確にできるようにしたい。

また、国語科研究テーマにもあるとおり「自分の考え」を再構成するための課題設定として以下の3点について注意したい。

①生徒の日常生活や社会生活を踏まえる（身の回りの言語環境から「気付く」）

②さまざまな観点からせまることができる（多様な考えを生み、他の考えとの「交流」を深める）

③これまで身に付けた言語能力を活用することができる（自らの言語能力をメタ認知する）

これらは、本校研究でいうところの「問うべき問い」の国語科としての観点に当たる。

また、「自分の考え」を明確にするために適切な教材であるかと言う点について、教材分析をすすめていきたい。言語活動を踏まえた学習活動を展開するに当たって、どのようなアプローチが可能か、より分析的に教材研究を行う。また、来年度より取り組むことになる新教材についても、見通しをもって取り組みたい。さらに、社会生活からの題材に興味を抱かせたりするために新聞などを活用した授業などにも積極的に取り組んでいきたい。

## C) 教師の役割（発問、指示など）

生徒の主体的な学習活動を促すための指示発問を計画的に行うことはもちろんであるが、日々の授業についてももう一度見つめ直してみる必要がある。生徒の学習活動をより効果的にすすめるための発問内容を学習課題と併せて検討していきたい。具体的にはロジックツリーなどを活用して、発問内容の精選と見直しを行い、自分自身の授業を見つめ直す機会にしていきたい。

また、学習過程の中でその機会がふえつつある「交流」の際の教師の役割については検討していきたい。生徒主体の交流活動がより効果的で、内容的に深みをもたせるものであるために取り組んでいきたい。友人との考えの交流は、視野を広げさせきっかけにもなるだけでなく、コミュニケーション能力という図ることのできない能力への第一歩にもなると考える。できるだけ多くのグループ活動の場を設定し、その時の教師の動きについては、目標と観点を失うことなく実践を積み上げていきたい。具体的には、グループ活動における教師の観察、助言の方法、一斉指導における取り上げ方、目標への収束についてなどが考えられる。

## D) 評価

教師側がどのように見取るかも大切な要素であるが、生徒自身にどのような学習を経て、どのような力が身に付いたかを認識させることも有用であると考えている。これまで、一枚ポートフォリオや振り返りシートな

ど、さまざまな方法で取り組んできたものをさらに発展させていきたい。生徒自身のメタ認知的な視点をもつことの有用性に気づかせるとともに、教師の評価が生徒に効果的に還元できることの二面からせまることができればと考えている。

### 3 研究内容

#### 1) 課題解決的な言語活動の設定

##### 「言語活動の充実」

小学校で身に付けた力を今後の社会生活も見据えた言語活動を通して、課題を解決する能力を身に付けることが求められている。この目的を達成するためには、生徒自身が課題を明確にし、学習の見通しをもって主体的に課題解決に取り組む授業を創り上げて行かなくてはならない。

課題解決的な言語活動という研究内容には課題解決にふさわしい価値ある学習課題・言語活動が求められる。これらを設定する際に、前述したとおり以下の3つの観点に注意したい。

##### ①生徒の日常生活や社会生活を踏まえる（身の回りの言語から「気付く」）

生徒の日常生活や社会生活と言葉が密接な関係にあることを学習を通して実感させることで、言語能力を身に付ける有用性に気付かせ、身の回りの言語についても敏感になるような感覚をもたせたい。そのために学習課題についても生徒の国語科の既習事項や生活経験の実態を踏まえた上で、検討していきたい。

##### ②さまざまな観点からせまることができる（多様な考えを生み、他の考えとの「交流」を深める）

生徒の考えを深め、広げる一つの方法が交流である。さまざまな考え方と出会うことで、自分の考えを見つめ直し、新たに創り上げる機会をもつことができる。交流を促し、多くの考えに出会うためにも、さまざまな観点からとらえることができる課題と活動の場を設定する必要がある。

##### ③これまで身に付けた言語能力を活用することができる（自らの言語能力をメタ認知する）

生徒自身がこれまでどのような考えをもっていたのか、もしくはどのような力を身に付けてきたのかについて振り返り、その言語能力を生かそうとする課題・活動を設定したい。つまり、既習事項を活用させる課題である。生徒が自分の学び方を少しでも意識することができればと考える。幸い今年度から、小学校、高校の先生方にも協力員として参加していただいた。学習課題・言語活動の設定について「小学校 - 中学校 - 高校」の流れについても検討していきたい。

このように3つの観点を生かして学習課題・言語活動の設定に取り組む。

#### 2) 学習過程を明確にした指導計画

読解の場面において、学習者が文章をどのように読み解いているかということを意識することは、読解の方法を自分の力として身に付けることになる。新しい文章に出会った際にも、これまで身に付けた方法で内容を理解しようとするだろうし、逆に自分が身に付けていないアプローチで文章に触れようとする新しい方法に向かおうとする意欲を喚起することになるだろう。大切なことは、生徒が読解の過程の中で、自分がどのような学習を行っているかを明確にすることである。

そのためには、学習過程において、何を目的にどのような観点から学習しているかを明らかにする必要がある。新学習指導要領では、指導事項が学習過程を意識して配列された。もちろんすべてこの流れで学習が進むわけではないし、複合的に行われる生徒の読解過程と完全に一致することはないであろう。しかし、それぞれの活動を流れの中で意識的に行うことは、確実な習得と新しい気づきへの観点となる。

例えば、説明的文章を読む時、まず「題名」から内容と構成についてこれまでの既習知識や経験と関連付けて、文章の大体について見当を付けるいわゆる「題名読み」が無意識のうちに行われる。そして、ここで形成された内容と構成を下地に、文章の初めから読み進めることで検証し、再構成しながら理解を進めていく。このような説明的文章を自分自身がどのように読み進めているかという読みの構え、いわゆるスキーマを生徒に自覚させるのである。そうすることで、新しい文章に向き合ったとき、いつもとは違う文章構成、書き出しの違い、内容の理解の仕方について気づき、新しい自分の読みを形成していくことになる。

このように一つのパッケージ、スキーマとして意識させることで、文章の解釈に際し、自らの力で絶えずモニターし、予想の方向性を調節・修正することが可能になるであろう。

## 4 研究を支える取り組みとして

### 1) 単元構想表

富山哲也調査官が推奨する「単元構想表」を基に指導計画を立てることで、より活動の流れが明確になるとともに、課題をどの段階で、どのような流れで設定していくことが望ましいのかについて考えることができる。指導計画を立案する際に活用していきたい。

### 2) N I E

生徒が言葉について興味関心をもち、主体的に言葉とかかわとうとする態度を形成するためには、言葉のもつおもしろさや実生活における有用感に気づかせるところから始めなくてはならないと感じている。文学的文章を深く読んだり、説明的文章の構成を自分の表現に生かしたり、さまざまな場面で国語に対する関心を高める機会はある。しかし、生徒は、その機会に気づかずに学校の授業だけで国語科が完結してしまっている場合が多いのではないだろうか。豊かな言語感覚を養う環境は身の回りに存在しているのに、参画せずに傍観している状態がある。

そのために、新聞を活用した授業に取り組んでいる。日常的に触れること、身の回りの言語に関心持つことを目的としている。

### 3) 可視化・ノート作り

気づいたことや考えたこと、理解したことなどを見えるようにすることで、情報がより整理されやすくなると考えている。基本は、自分でわかりやすく構成したノート作りであるが、その観点をもたせることをねらい、これまでの研究においても以下のような可視化を意識した取り組みを行った。

- ・「トゥルミンモデル」を使った論理構成の分析（説明的な文章の読解）
- ・「一枚ポートフォリオ」を使用した思考の変容の見取り（一単元を通じた授業の感想の見取りと変容）
- ・「共感・疑問・批判」を意識した読解（文章読解の際の思考の分類）など

このことは、生徒の意識化だけでなく、教師側の評価としても有効であると考えている。生徒がノートをとることによって考えを深められるような工夫を積み重ねていきたい。

### 4) 考えの交流

自分の考えを再構成するための一つの学習過程に「交流」がある。これまでも学習過程の中に組み込まれており、小グループによる意見交換は効果的であることが実感としてある。しかし、ただの意見発表で終わってしまったり、深みや広がりをもった交流にまでたどり着かなかったりする場合も多く見受けられる。そこで、ファシリテーション（facilitation：集団による知的相互作用を促進する働き）やワールド・カフェなどの考えも取り入れながら、より効果的な交流のあり方について実践に取り組みたい。

#### 【昨年度の具体事例 「ワールド・カフェ教室版」】

ワールド・カフェ形式で行うと1セット、2時間ほどかかる。そこで、1単位時間（50分）で収まるワールド・カフェ教室版に改訂した。

#### ① 1単位時間で行うための時間設定

	学習活動	時間	活動の概要
1	課題の確認	5分	・本時の課題を確認する。
2	第1ラウンド	10分（移動1分）	・4人1グループで第1ラウンド。 ・第2ラウンドに向かう際にカフェ・ホスト（1名）を決め、ホストはその場に残る。ホスト以外の3名は、新たな視点を獲得するために他グループに旅立つ。
3	第2ラウンド	12分（移動2分）	・新たなグループで第2ラウンド。 ・カフェ・ホストは、グループで話し合われたことを他グループからの旅人に説明する。
4	第3ラウンド	10分	・カフェ・ホストが中心となり、さまざまな視点を基に、課題解決のための集約に入る。 ・課題に対して、まとめることができなくてもよい。
5	全体交流	10分	・各グループで話し合われたことを発表する。・自分の考えを振り返りシート等に記入。

#### ② 生徒の自由な発想を（気づきを大切にさせる。お互いに発想を引きだし、つなげる。）

- ・落書き用模造紙の利用
- ・全体共有の場面

#### ③ リラックスした環境作り

- ・ラウンド終了の合図
- ・図書室が理想的

## 5 実践事例【 実践事例1 事前研究会 】

「 文章に書かれている根拠の裏付けをしよう」 ～読みを深めるために必要な情報を集める～

指導者 1学年 平井 規夫

### 1 目指す言語能力

文章中に書かれている内容について、集めた情報をもとに文章をより深く理解する。

【 指導事項 読むこと 】

カ 「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること」

【 言語活動例 】

ウ 「課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。」

### 2 単元名

おいしい読書

・ 教材 「江戸からのメッセージ ー今に生かしたい江戸の知恵ー」(光村図書出版1年)

3 本指導計画において意識させたい「言語意識」(略)

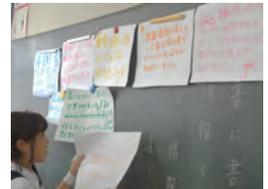
### 4 指導の目標

○ 文章中に挙げられている表現について、それが信頼できる情報であるか調べ読みを深める。

### 5 指導計画

( 読むこと 5/53 時間 )

【 単元構想表 】 【 C 読むこと 】(第1学年)



単元(教材)名		おいしい読書(「江戸からのメッセージー今に生かしたい江戸の知恵」「豊かな心で豊かな暮らし方」)				
言語活動例		ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて文章を引用する。				
指導事項		動	学 習 活 動	評 価 規 準	時	
ア	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解すること。 【語句の意味の理解】	文章中に書かれていることが信頼できるものか調べよう	作品を通読し、作品についてのおおまかな内容をとらえ、初発の感想を書く。	初発の感想については、共感・疑問・批判を明確にしながらかけるよう工夫する。	1	
イ	文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。【文章の解釈】		作品における筆者の論の展開をまとめる。筆者の主張に行き着くまでの文章の書かれ方についてまとめる。	筆者が主張に行き着くまでにどのような事実や理由(根拠)を挙げながら文章を書いているか、簡潔に書いている。	2 3	
ウ	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。【文章の解釈】		(省略)		省略	
エ	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。【考えの形成】		○	文章の書かれ方について、書き手のどのような工夫があるか、またその効果について考える。	主張に行き着くまでにどのような事実と理由(根拠)を挙げているか書いている。	3
オ	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。【考えの形成】		○	グループごと課題にそって集めた情報をまとめる。集めた情報が文章中の筆者の挙げている事実や理由付けの裏付けとして適切なものであることを発表する。	個人・グループで集めた情報が信頼できるものであることを考え、ワークシートに書いている。また、調べた情報が必要であることを全体で発表している。	4
カ	本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。【読書と情報活用】		◎	文章に書かれた事実や理由付けが信頼できるものか考え、必要に応じて文献を探し、情報を集める。	個人・グループで信頼できる情報であるか考え、文献から必要な情報を集めている。	4
関連する(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)		(1) イ(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。		具象的で比較的身近な事柄を表す語句が文章中でどのように使われているか、またどのように使うか考えている。		

1 単元名・目指す言語能力

「君は『〇〇〇』を知っているか」を書こう  
 ～表現の仕方について自分の考えをもつ～

2 教材名 「君は『最後の晩餐』を知っているか」(光村図書出版 2 年)

3 生徒の実態 (略)

4 指導の内容と言語活動, 教材のかかわり (略)

5 日常の取り組み (略)

6 指導の目標

【 指導事項 読むこと 中 2 】

- 「君は『最後の晩餐』を知っているか」に用いられている構成や表現の仕方について考え, 「評論」に対する自分の考えをもつことができる。  
 (Cウ 文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをまとめること。)

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

- 筆者の用語の使い方や抽象的な言葉に着目し, 文脈に即して意味を理解できる。  
 ((1) イ中 1 (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。)

【 言語活動例 中 2 】

- 評論の面白さを味わうとともに, 表現の仕方に着目し, 自分の作品に生かすことができる。  
 (イ 説明や評論などの文章を読み, 内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。)

7 指導計画と評価計画 (C領域「読むこと」59時間中の 7 時間)

(1) 評価規準 (略)

(2) 学習過程の概要

単元(教材)名		〈 「君は『最後の晩餐』を知っているか 」 〉 〈 7 時間計画 〉			
言語活動例		イ 評論の文章を読み, 内容や表現の仕方について自分の考えを述べる。			
指導事項		重	学 習 活 動	評 価 規 準	時
導入			単元全体の流れを理解し, 学習の見直しをもつ。これまでの作品の解釈について振り返る。		
ア	抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。		「最後の晩餐」を通読し, 図版と読み比べながら作品の概要について知る。	関① 課題を解決するために, 積極的に作品を読もうとしている。	1
イ	文章全体と部分との関係, 例示や描写の効果, 登場人物の言動の意味などを考え, 内容の理解に役立てること。	○	「科学が生み出した新しい芸術」, 「かっこいい」などの言葉について読み解く。 I レオナルド・ダ・ヴィンチの紹介 II 「最後の晩餐」の分析 III 「最後の晩餐」の魅力	読② 言① 内容について, 文章中の言葉を根拠として引用し, さまざまな観点から表現の効果について考えている。	2 3
ウ	文章の構成や展開, 表現の仕方について, 根拠を明確にして自分の考えをまとめること。	◎	文章全体の構成や, 筆者の表現の仕方について考える。 【課題】「筆者はなぜ『最後の晩餐』を「かっこいい」と評したのか?」 【課題】「レオナルドが描きたかった『それ』とは何か?」	読② 文章の構成や表現の仕方について自分の考えを整理している。	4 5
エ	文章に表れているものの見方や考え方について, 知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。		自分なりの評価観点を決め, 調べ学習を通じて得た知識を元にして「評論」を書く。	読① 読み取った内容や表現の仕方を自分の作品に生かしている。	6 7
オ	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て, 自分の考えをまとめること。		友人の批評文を読み, 感想をもつ。		
関連する (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)		(1) イ (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。			



1 単元名・目指す言語能力

「情報の接し方について考えよう。」

～2つの文章を読み比べ、情報について自分の考えを深めよう～

- 2 教材名 吉見 俊哉「ネット時代のコペルニクスー知識とは何か」(光村図書出版「国語3」)
- 3 生徒の実態 (略)
- 4 指導の内容と言語活動, 教材の関わり (略)
- 5 日常の取り組み (略)
- 6 指導の目標

【関心・意欲・態度】

交流を通して、仲間の考えと自分の考えを比較して、自分の考えを深めることができる。

【指導事項 読むこと 中2】

C-エ 文章を読んで人間, 社会, 自然などについて考え, 自分の意見をもつことができる。

(C-ウ 2つの文章を比較して, 表現の仕方の違いに気づき, 共通点や相違点をあげながら評価する。)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (イ)】

文脈上での語句の意味に注意して読むことができる。

【言語活動例 中3】

情報化社会に関する2つの文章を読み比べる。

(イ 論説に盛り込まれた情報を比較して読む。)

7 指導計画と評価計画 ( C領域「読むこと」50時間中の5時間 )

- (1) 評価規準 (略)
- (2) 学習過程の概要

単元(教材)名		論旨を捉える「ネット時代のコペルニクスー知識とは何か」〈 5時間計画 〉				
言語活動例		イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。				
指導事項		重	学 習 活 動	評 価 規 準	時	
ア	【語句の意味の理解】文脈の中における語句の効果的な使い方など, 表現上の工夫に注意して読むこと。	情報の接し方について考えよう	・単元の目標を理解し, 「ネット時代のコペルニクス」を通読し, 作品の内容をとらえ, 初読の感想(共感・疑問・批判)を書く。(事前)新出漢字や難解語句について調べる。	関②	1	
イ	【文章の解釈】文章の論理の展開の仕方をとらえ, 内容の理解に役立てること。		・「知識」「情報」をキーワードにして, 論理の展開の仕方をとらえ, 内容を理解する。	言①	2	
ウ	【自分の考えの形成】文章を読み比べるなどして, 構成や展開, 表現の仕方について評価すること。		・「ネット時代のコペルニクス」の構成や表現の仕方について理解し, その効果について考える。	読②	3	
エ	【自分の考えの形成】文章を読んで人間, 社会, 自然などについて考え, 自分の意見をもつこと。		○	・2つの文章に書かれた内容をもとに, ワールド・カフェ形式の交流を通して, 自分の考えを深める。(本時)・情報化社会に対する自分の考えを書く。(600～800字程度)	関① 読① 2つの文章の内容を読み取り, 「ネット時代」について, 自分の考えを持つことができる。	3
オ	【読書と情報活用】目的に応じて本や文章などを読み, 知識を広げたり, 自分の考えを深めたりすること。		◎	・単元の目標を理解し, 「ネット時代のコペルニクス」を通読し, 作品の内容をとらえ, 初読の感想(共感・疑問・批判)を書く。(事前)新出漢字や難解語句について調べる。		3 4
カ	【語句の意味の理解】文脈の中における語句の効果的な使い方など, 表現上の工夫に注意して読むこと。					
関連する【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】		(1) イ (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに, 話や文章の中の語彙について関心をもつこと。				
		具象的で比較的身近な事柄を表す語句が文章中でどのように使われているか, またどのように使おうか考えている。				

## 6 評価（見とりについて）

○評価規準と照合した評価の方法の工夫

【例 中2の実践より】

A 単元全体の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力
①評論の文章を読んで内容を理解し、表現の工夫について、根拠となる部分や表現の仕方について考え、自分のものを見方や考え方をひろげようとしている。	①評論の文章を読んで、文章の構成や表現の工夫について、根拠となる部分や表現の仕方について自分の考えをもっている。(ウ) ②評論の文章を読んで自分の考えを述べるために、各段落が文章全体の中で果たしている役割を捉えたり、叙述の順序に注意して読んでいたりしている。(イ)

B 本時の評価規準

ウ	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。	文章全体の構成や、筆者の表現の仕方について考える。 【課題】「筆者はなぜ『最後の晩餐』を「カッコいい」と評したのか？」 【課題】「レオナルドが描きたかった『それ』とは何か？」	読② 文章の構成や表現の仕方について自分の考えを整理している。	4 5
---	--	---	------------------------------------	--------

### 生徒の見とり

生徒にどのような問いを、どのようにして（教材・教師の役割などを通して）もたせることができたか。

○初発の感想より学習課題を設定する。

ポートフォリオの初発感想の記述から、全体に共有する課題を設定した。生徒記述『それ』というのが抽象的すぎてわからない。「筆者は『それなのだ』と言い切っているが、断言できるのか。」「見せたいものは別のものでは。」

↓（「共感・疑問・批判」の観点から考えることの積み重ねの効果）

全体の課題「レオナルドが描きたかった『それ』とは何か？」

○STEPごとに評価する。

【学習活動「ワールド・カフェ」の見とり】

B 本時における「関心・意欲・態度」の評価

・観察（交流参加の様子・グループ発表時の様子）

B 本時における「読むこと」の評価

・観察（交流時の内容、メモの記述内容・グループ発表内容）

\*これらは全員をまんべんなく観察することができない。生徒の実態、クラスの実態を把握した上で、計画的な評価計画が求められる。

【ワークシート「一枚ポートフォリオ」からの見とり】

（STEP2『それ』とは何か？の記述より）

○B 本時における「読むこと」の評価

□評価Aの記述例

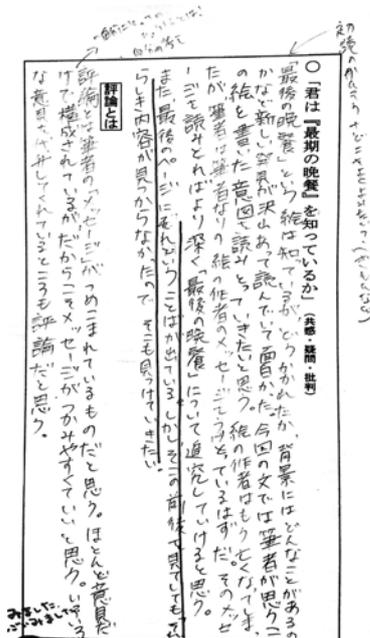
「レオナルドが描きたかった『それ』とは、レオナルドは科学を通して、ストーリーと絵画の可能性を伝えたかったのだと思う。ストーリーは、「レオナルド自身が絵画と科学に生きた」という人生と、絵のストーリー両方を描いた。また、絵画の可能性は「絵画はまだ進歩する」ということで、「芸術は永遠なのだ」というのも同じように解釈できる。しかし、「それ」の感じ方は人それぞれであるため、一人一人の「それ」を絵を見て感じてほしい。（自分も含め）」

→ 筆者の文章を理解し、自分の考えを整理している。引用など具体的な記述を基に論を展開。

□評価Cの記述例

「『それ』とはレオナルドが描いた『最後の晩餐』にある細部の書き込みではなく、絵の細部がはげ落ちた全体がぼんやりとうつるようになってからこそ、全体がより明確に見えるようになったものだと思う。」 → 「それ」について言及しているが、自分の意見を構築する根拠がない。考えが整理されていない。

○B 本時における「関心・意欲・態度」の評価



## □気付き・感想

今回のカフェでは、上のようなことを発表したが、やはり、人が評論した文章なので、1班1班違った意見が出て、面白かった。また、一つの班から「画家の意図」という言葉がでたが、それが何なのか知りたい。」

→ (関心・意欲・態度) 評価A ワールド・カフェの学習活動に対する感想だけでなく、新たな課題を設定している。このような姿勢を育みたい。

○ B本時の評価を積み上げてA単元全体の評価へ

「ポートフォリオ」の記述 + 「学習活動」の各ステップの評価

## 7 成果と課題

1) 課題解決的な言語活動の設定

・「気付き」から課題設定を行う

○生徒の活動に対する意識。関心意欲だけでなく、活動量も充実する。

△生徒の実態・指導事項・学習活動(教材)のマッチング。活動にとらわれないようにすること。活動が中心になり、生徒も教師も指導事項を見失うことがあった。

○気付きからの学習課題の設定。生徒の気付きを基に、学習課題を設定することで、課題に対する

・「交流」を通じた自分の意見の形成

○2年間の成果が見られる。自分達で「交流」の方法を選択するようになった。また、話し合い活動に慣れ、どのような課題においてもスムーズな進行が見られる。

△ワールド・カフェが充実するのだが、目的や状況に応じた活動内容の選択が求められる。

2) 学習過程を明確にした指導計画

○ 一枚ポートフォリオの活用。

目的に応じた記述ができるようになってきた。何が求められているか、短時間でまとめる力が付いてきた。

△ 早くなった分、文章量が増え、細かい字で多くの文字を記述するようになった。短くまとめることは、難しい作業ではあるが、端的に伝える力は、要約する力にもつながるので指導していきたい。

## 8 参考図書

富山哲也編著「<単元構想表>でつくる! 中学校新国語科授業STARTBOOK」明治図書 2011

河野庸介編著「中学校新学習指導要領の展開 国語科編」明治図書 2008

富山哲也編著「中学校新国語科授業STARTBOOK」明治図書出版 2011

河野庸介編著「中学校国語科新授業モデル」明治図書出版 2011

井上尚美 「国語教師の力量を高める 発問・評価・文章分析の基礎」明治図書 2005

井上尚美 「思考力育成への方略」明治図書 2007

「国語科重要用語辞典」東京法令出版 2009

有元秀文 「ブッククラブ実践入門」明治図書 2010

香取一昭 大川恒 「ワールド・カフェをやろう!」日本経済新聞社 2009

佐藤公治 「認知心理学からみた読みの世界」北大路書房 1996

堀 公俊 「ファシリテーション入門」日本経済新聞出版社 2004